

【GP 農法のすべて】

GP 農法では、土から酵素を作ります。土からの酵素がすべての基本です。

GP 元気水は土から作った酵素です。

作り方を簡単に言えば、畑の土を水に溶かして攪拌します。

上澄みに微生物が浮き上がります。その上澄みをすくい濾過して、タンクに嫌気菌用、好気菌用と別々に入れ、それぞれに嫌気菌、好気菌用のエネルギーの中で熟成します。熟成が終わったら、嫌気菌、好気菌を混ぜ合わせれば元気水の完成です。その GP 元気水は草を発酵させる上で必要です。

草エキスを作るには、30 種類以上の草をタンクに入れてこの元気水と、米ぬか、水、を混ぜ合わせます。セラミック(エネルギー)を入れたタンクの中で発酵熟成させます。

草は基本的には腐りません、切ると枯れます。腐らずに枯れるのは草のエネルギーが高いからです。本来なら枯れる草に“少し”のエネルギーをかけると、草は腐り異臭を発します。同じ草に“もう少し高い”エネルギーをかけると、草は発酵します。

ラオスでは、草エキスを一度作るとその草エキスを使い回ししています。出来上がったエキスを全部使いきるのではなく、少量を残し、次にまた草エキスを作る時に使用します。残りのエキスと、草と米ぬかとセラミック(エネルギー)だけで、また新しい草エキスが完成します。

日本でも草エキスを発酵させるのに使い回しをしたのですが、草エキスのエネルギーが弱くなって、使い回しには適さない状態になります。何度か試験したのですが弱くなってしまいます。それは化学肥料が作用しているのかもしれませんが。